

令和 8 年度 学校経営環境分析書

豊浜中学校区 校番 24 学校名 呉市立豊浜中学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因) 【地域・保護者】 ・学校に対して協力的な支援体制がある。 ・静かで美しい自然環境があり、落ち着いて学校生活を送ることができる。 ・地域の歴史的な文化遺産、特産物等、学習教材に活用できる資産に恵まれている。 【呉市】 ・バス通学に補助が出るなど生徒の安全面への援助がある。 ・タブレット端末の生徒、教職員への配布がある。	S (強み) 【学校組織】 ・教職員一人一人が力を発揮し、協力して取り組む体制ができています。 ・少人数のメリットを生かし、個に応じた丁寧な指導を行いやすい。 【生徒実態】 ・生徒は素直で真面目な生徒が多く、部活動や生徒会活動にもしっかり取り組んでいる。 ・掃除や諸行事の準備・片付けなど少人数で協力してできる。 ・基本的な生活習慣(3点固定)が身に付いている生徒が多い。	内部環境
	T (阻害的要因) 【地域・保護者】 ・豊町、豊浜町共に少子高齢化が進んでいる。 ・一定数の生徒がバス通学のため、学校での活動時間に制限ができる。 ・校区が広く、小学校との距離がある。 ・近隣に高校がなく、進路や高校に関する情報が得にくい。 ・島外での活動について、交通費、時間の制約がある。 ・家庭数が少なく、PTA活動が難しい。そのため、保護者の支援が受けにくい。 ・児童養護施設との情報共有において、多くの職員が関わるため、誤解が生じやすい。	W (弱み) 【学校組織】 ・教職員数が少ないため、一人にかかる分量が多い。 ・個々の教員の力量に頼りがちで、組織的に取り組めない面がある。 ・ICT活用スキルにばらつきがある。 【生徒】 ・少人数のため、人間関係が固定化している。また、活動が制限される。 ・個々の生徒が抱える役割が多く取組が中途半端になりやすい。 ・自己肯定感が低い生徒がいる。 ・複雑な家庭環境や発達障害をかかえる等、本人の責任によらない課題をもつ生徒が比較的多い。 ・生徒数が年々少なくなっており、部活動や学校行事の維持が難しくなっている。	

支援的要因と強みを生かした活動・取組は

(1) 個に応じた丁寧な指導と生徒が主体的に学び合う授業づくりや教育活動を行い、学力を伸ばす。
 (2) 保護者との連携をしっかりと行い、家庭学習を充実させ学習内容の定着を図る。
 (3) 総合的な学習の時間(キャリア教育、ふるさと学習等)を通して、地域人材の活用を進めるとともに、地域への発信や地域貢献に取り組む。

(1) 小中合同行事等でリーダーとして活躍する機会を多くし、肯定的な評価をすることで自己肯定感を高める。
 (2) 教育相談(進路指導をふくむ)を充実させ、生徒理解を進めていくとともに、進路に対する展望をもたせる。
 (3) 特別支援教育の視点を生かした授業づくり等に取り組む、教職員による生徒の実態に係る交流を充実させるなど組織的な支援体制を充実させる。
 (4) 児童養護施設等関係機関との連携を密にする。

阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は

2 重点課題

- ①地域・家庭を巻き込んだ防災教育
- ②子どもの問いが生きる「考える授業づくり」
- ③少人数の利点を生かし、全ての子どもが「分かる・できる」ための工夫や生徒に関わりきる指導の充実 “全員が笑顔になれる授業”， “特別支援教育の視点を取り入れた工夫” の一層の充実
- ④小中一貫教育による異年齢交流や生徒個々の活躍の場を意図的に設定することを通じた自己肯定感の向上 “すべての人が「主役」の学校”
- ⑤安心・安全な風土の醸成
- ⑥生徒が相談しやすい雰囲気との醸成と教育相談や校内連携、関係機関連携の充実
- ⑦保護者・地域との連携強化による信頼関係の向上
- ⑧働き方改革を推進し教職員の健康・福祉の向上